

平成 30 年 9 月 30 日  
バンコク産業情報センター  
鈴木 太郎

## ラオスの投資環境について 一般調査報告書

今年の 7 月、ラオスで建設中のダムが決壊し、多くの被害者が出た事故について覚えている方も多いかと思います。

ラオスは、「東南アジアのバッテリー」とも言われ、メコン川や周辺の山脈からの支流など水力資源が豊富なため、ダムを造り周辺国に電力を売ることによって外貨を稼いでおり、近年、ラオス政府は水力発電ダムの建設を積極的に進めています。

今回は、アセアンの中でもタイプラスワンとして有望なラオスについて報告したいと思います。

ラオスは、人口約 700 万人で、25 歳未満の人口が約 6 割を占める若い国で、労働人口の約 7 割が農業に従事しています。1 人当たり GDP は 2,000 米ドル弱と低いですが、ビエンチャンでは 5,000 米ドル程度とも言われています。

タイ、ミャンマー、中国、ベトナム、カンボジアに囲まれた内陸国であるため、周辺国との関係が重要になりますが、タイとは、民族、文化、歴史などの面でも近く、タイ語が通じるほど言語も似ています。国別の貿易額では最も大きく、日用品から自動車に至るまでタイ製品が席卷しており、国境近くにある首都ビエンチャンから車でタイに買い出しに来ることもよくあるそうです。

中国とは包括的戦略パートナーシップの関係にあり、道路や鉄道などインフラ整備の支援を受けています。また、民間企業の国別投資額ではトップ、貿易額でもタイに次いで 2 位と、経済的なつながりも大きくなっています。

ベトナムとは最も長く国境が接しており、ベトナム戦争の際、ラオスもアメリカからの空爆を経験し、ともに共産党の 1 党支配で経済開放を進めている特別な関係にあります。民間投資や貿易額でもタイ、中国について 3 番目に大きな国となっています。

日本からの進出企業はまだ多くはありませんが、人件費の高騰している中国やタイから拠点を移す、所謂チャイナ+ワン、タイ+ワンの進出先として、近年、日系企業から注目されています。

(国別投資実績)

No	国	事業数	投資総額 (USD)
1	中国	830	5,367百万
2	タイ	746	4,455百万
3	ベトナム	421	3,394百万
4	韓国	291	751百万
5	フランス	223	491百万
6	日本	102	438百万



本年 6 月に愛知県では、「タイ・プラスワンセミナー～カンボジア・ラオスの魅力～」と題したセミナーを名古屋で開催しました。この中にご講演していただいた、ラオスのパクセーにある日系中小企業専用の経済特区へ訪問し、日系企業の進出動向などについて、同経済特区の管理運営を行っている「パクセー・ジャパ SME SEZ 開発会社（以下 PJSEZ）」の望月様（西松建設株からの出向）にお話しを伺いました。

Q PJSEZ の概要を教えてください。

A PJSEZ は、パクセー市内から約 20 分程度の距離にあり、日本の西松建設株が、ラオス政府やラオス企業とともに 2016 年に設立しました。開発面積全体 195ha のうち、第 1 期の 66ha の開発を段階的に開始しており、インフラ整備が完了している 13ha にはすでに入居企業による操業も始まっています。また、開発地域周辺の日系企業が進出している地域も経済特区に含まれており、現在 11 社が進出しています。

Q PJSEZ のメリットについて教えてください。

A ラオスは電力が豊富なため安い電気料金に加え、経済特区に認められる税制上の恩典や、進出にかかる各種手続きに関しワンストップサービスサポートを受けることができます。また、レンタル工場を整備していますので、入居から数か月で操業することが可能ですが、現在、7 区画あるレンタル工場はすでに入居済みのため、新たに建設する計画です。

入居日系企業による定期的な連絡会議を開催しており、PJSEZ からの情報提供や入居企業同士による情報交換なども行っています。

ワーカーの賃金は、タイやベトナムなど周辺国に比べ安く、雇用に関し地元のチャンパサック訓練学校（CTC）と人材紹介や職業訓練に関する覚書を締結し、優先的に優秀な人材を紹介してもらえるようにしており、携帯電話が普及しているため SNS を活用した募集も行っています。

さらに、日本の海外人材育成協会（AOTS）とも連携し、従業員向けに 5S セミナーを開催し、従業員の育成も行っています。

PJSEZ の望月敏洋様（右）



レンタル工場の外観



レンタル工場内の様子



PJSEZ に進出している企業は、子供服製造や、貴金属加工、武道具製造、ワイヤーハーネスなどで、中国の人件費の高騰に伴う新たな拠点としての進出や、タイの拠点を補完するため進出する企業が多く、ラオス人従業員を育成するため、日本や中国から派遣されていました。

タイなどラオス周辺国に進出され、ワーカーの賃金上昇等の理由から新たな拠点を検討されている企業の方は、是非一度視察にお越し下さいとのことでした。

今回訪問したパクセーから 50 キロほど東にはボランベン高原があり、標高が高く 1 年中冷涼な気候で雨量も多く農業生産地として適しているため、キャベツや白菜、コーヒーなど様々な作物が栽培されています。

農業分野への民間投資額は、発電や鉱業に次いで大きく、ラオス政府は食品加工など付加価値の高い農業生産を目指し、この分野への投資を奨励しています。

所得が上がっている中国、タイ、ベトナムといった周辺国への輸出も視野に、農業分野への進出も、今後は有望になってくる可能性もあると思います。

10 月には東京で「日・メコン地域諸国首脳会議」が開催されますが、ODA を通じた

インフラ整備や人材育成など、日本政府としてもこの地域の重要性から様々な支援を行っています。ラオスの経済規模は小さいですが、周辺国との地理的・経済的なつながりを強みに、今後、さらなる発展が期待されます。

さて、ラオスを訪れる観光客や観光収入は年々増加しており、ラオス政府は2018年を「ラオス観光年」として様々なプロモーションを行っています。

ラオスの古都「ルアンパバーン」はユネスコの世界遺産に登録された町で、アメリカの旅行雑誌「Travel+Leisure」の「The World Best City」第5位に選ばれるなど、ゆったりと流れるメコン川と古い街並みが、欧米人観光客に人気となっています。

今後も当センターでは、タイプラスワン、ラオス等の動向に注視してまいります。

本資料は、参考資料として情報提供を目的に作成したものです。

バンコク産業情報センターは資料作成にはできる限り正確に記載するよう努力しておりますが、その正確性を保証するものではありません。

本情報の採否は読者の判断で行ってください。

また、万一不利益を被る事態が生じても当センター及び愛知県等は責任を負うことができませんのでご了承ください。